

# 町内探検隊



## 今月の舞台 二本木新町

新幹線が三河安城駅に停車することから、西三河の玄関口と呼ばれる安城市。その中でも西の玄関口である二本木新町を訪ねました。

最初に訪れたのは、セロテープでお馴染みのニチバン株式会社安城工場。工場次長の小島さんが、面白い話をしてくれました。「全国で売られているセロテープの約70%は、ここで作っています。材料はすべて天然の素材なので、分

解されて土にかえるんですよ」すごい！セロテープって地球にやさしいんですね。しかし、さらに面白いものが工場の裏側にありました。それは、壁一面に描かれた絵。宇宙を飛ばセロテープと「無くして分かるありがたさ 親と健康とセロテープ」という標語です。新幹線から見えるように作った看板だそうです。ユニークさと大きさにびっくりしました。

ニチバンの工場を出ると、どこからともなく甘い香りが。正体は山崎製パン株式会社安城工場。総務課長の柴田さんに話を聞きました。「会社のシンボルマークは、家庭の食卓の光になるようにと、昭和41年から太陽のマー



配送車にも太陽のマークが

クです。安城工場だけのオリジナル製品が出せるので、去年は安城農林高校の生徒と、安城産いちじくを使ったシフォンケーキを作りました。また、地元の農家や団体の協力で、梨の里小学校の子どもたちが作ったお米を使っての米粉パン作りを、子どもたちと一緒に学びました」

身近な工場でのエコや地産地消の取り組みに驚きながら、探検隊は次の町を目指すのでした。



ニチバンの巨大広告と小島さん

# 元気っ子アルバム

もりあ 森瑠愛ちゃん(6か月)



笑顔がかわいいうちゃんです。天気がいい日は、ママとお散歩しているよ!!ご飯をたくさん食べて大きくなるね♡  
お父さん：隆也さん  
お母さん：歩美さん (里町)

やまだえいと 山田瑛斗くん(1歳)



こんにちは！瑛斗です。まだ歩けない僕。早く歩けるようになって大好きなこまちちゃんとお散歩に行きたいです♪  
お父さん：裕司さん  
お母さん：芽衣子さん(住吉町)

たかはしれん 高橋廉くん(中・10歳)



双子の弟たちは僕の大切な宝物。♡いつもかわいがってくれて、遊んでくれるお兄ちゃんが僕たちはとても大好きです♡  
お父さん：良太郎さん  
お母さん：美由紀さん(桜井町)

「わたしの望遠郷」「元気っ子アルバム」コーナーでは、皆さんからの投稿をお待ちしています。  
わたしの望遠郷▶皆さんの出身地を紹介 元気っ子アルバム▶皆さんのお子さんを紹介  
申し込み方法など詳しくは、電話で秘書課広報広聴係(☎71>2202)へ。

# わたしの望遠郷



## 愛知県瀬戸市



2005年に開催された「愛・地球博」は、まだ記憶に新しいと思います。その会場となったのが、わたしの故郷である「せともの町・瀬戸市」です。「せともの」には、古代から現在まで、約1300年の歴史と伝統があります。今や、焼き物の代名詞として、日本のみならず世界の人々に知られているのです。



瀬戸市では、毎年「せともの祭」という一大イベントが開催されます。市の中心部を流れる瀬戸川の両岸に、たくさんの販売市が並び、大勢の人でにぎわいます。幼いころ、せともの祭の夜は、母の実家に親せきが一堂に集まって、食事をするのが

慣例でした。そして、いとこたちと夜店に繰り出して、綿菓子や金魚釣りなどを楽しんだものです。今でも、母の実家に帰り、家族みんなで食卓を囲むことがあります。母の手料理を盛り付け

るのは、わたしが子どものころから見慣れている食器(せともの)です。ふと、昔の思い出がよみがえると、わたしは優しく暖かい気持ちになります。そして両親への感謝の気持ちがあふれてきます。

これからも「故郷」を大切にすることを子どもたちに伝え、堂々と「わが故郷は安城」と言えるものを残していきたいと、改めて感じています。

田中 ゆかりさん(住吉町)



せともの販売市のようす

# スクールナビ

## 安城西中学校

昨年度創立50周年を迎えた安城西中学校には、受け継がれている文化があります。

まずは、俳句・短歌。すべての生徒が、俳句や短歌作りに励んでいます。地道に続けることで、自然と上手な作品が詠めるようになるとか。優秀な作品は、秋の文芸祭で、地元の俳人である山口伸氏が解説をしてくれます。こうした行事や授業で培われた感性は全国でもトップレベ

ル。毎年、数々のコンテストで、優秀な成績をおさめています。

次に、三河万歳。市の伝統芸能である三河御殿万歳を活動内容としている、郷土芸能研究会というクラブがあります。平成7年に発足し、今年で14年目。部活動ではないため、意欲のある子が集まり、楽しみながら活動しています。内容は、三河万歳保存会の人から指導をうけるほどの本格的なもの。生徒の演

じる元気な三河万歳は大変好評で、地元の祭りや老人ホームへの出演依頼が、毎年10件以上もあります。研究会の小牟田さんと加藤さんに話を聞いてみると、「部活動とは違い、伸び伸びとできるから楽しい」「手を叩いてくれたり、声を掛けてくれたり、お客さんの反応がうれしい」と笑顔で答えてくれました。

このほかにも、赤ちゃんを抱っこしたり、ふれあったりして、命の大切さを知る「生命のルーツを考える会」を始めるなど、新しいことも積極的に取り入れています。

こうした体験は、生徒の心に残り、将来に生かされます。これが、安城西中学校で最も受け継がれている伝統文化といえるでしょう。



コンクールの盾にまぎれて作品が掲載されたペットボトルも



三河万歳を始めて5年目という小牟田さん(左)、加藤さん